

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.169

2013/12/14

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## ササユリ/今年は8,000粒播種



13/11/12

2005年から始めたササユリの播種も9年目となりました。この活動も当初は会員数人で実施していましたが、昨年からは西浅井中学の2年生・レイカディア大学のOBさらに一般公募のみなさんに参加して貰い、会員ともども盛大な活動になってきました。播種する観察コース沿いは11/6に山門老人会の方々によってきれいに刈り払いがされており、8,000粒の播種は1時間余りで完了しました。今年は昨年の15,000粒より随分播種数が少なかったのは、不稔の朔果が多かったことと、シカの食害がひどく全く採種が出来なかった地点もありました。



播種地点はきれいに刈り払いが済んでいる(13/11/08)



1粒1粒丁寧に播種(13/11/12)



エゾリンドウの種子



エゾリンドウ播種

こうしたイベントも「生物多様性保全」の考え方を一般の方々に普及するためには欠かせないのですが、草刈をはじめ種子の準備等々企画段階からするとかなり長期の準備が必要です。シカの食害は、リンドウ・エゾリンドウ・ユキグニミツバツツジも例外ではありません。これらの植物も先を考えて増殖をしておく必要があります採種・播種も行いました。





西宮・甲英高等学院自然体験学習



今年も紅葉期のガイド多忙(13/11/24)

年々紅葉期のガイド要請が増え、その養成に応えるには毎日ガイドという状態となり、本会の本務である保全活動に支障が出かねない。このことを考慮してガイド要請の約半分を断るようになりました。その一方で小・中・高・大学の児童・生徒の受入れは過去最大となりました。次代を担う若い世代に自然をしっかりと観て欲しいという趣旨で、かなり無理をして受け入れをしました。子どもたちや若い人たちを取りまく環境が日増しに厳しくなっている昨今、自然を知ることによって彼等自身の生き方を見つけ、見直してくれる機会になればと思っています。



間伐体験学習も取り入れる(13/11/20)



阪大生現地演習(13/12/01)

そんな中森林キーパーを中心にヒノキの植林地の間伐・玉切り及び間伐材を利用した観察コースへのチップ敷きという新たな取り組みも行いました。勿論多くの人を受け入れることで、



間伐・林床整備・食害防止作業也多忙(13/12/08)

観察コースの傷みは例年以上になり、かなりの頻度で観察コースの補修にも時間を費やしました。これらの体験を訪問者に話すことで、本会の活動をより理解して貰えたり、自然の観方も変わったと微笑みながら森から帰られる姿を見るとやり甲斐も感じられます。またそのことが「山門水源の森」のガイドが他の地域でのガイドと一味違うガイドだと好評を得ている理由でもあります。



観察コースの階段補修(13/12/12)



薪割り機

間伐材は薪割り後チップに(13/12/13)

今年も日々多くのことにチャレンジしてきました。3月の報告会に向けて整理をし次年度に繋げたいものです。



間伐材チップをコースに敷く(13/12/04)